

YAコーナーに新しく入った本からピックアップ。

YA 通信

№74 2017年3月号
春日井市図書館発行

YA(ヤングアダルト)世代
=10代のみなさんのための
読書情報誌です。
ご紹介する本は特に記載が
ない限り、図書館3階YA
コーナー所蔵です。



『正しい目玉焼きの作り方 きちんとした大人になるための
家庭科の教科書』

森下 えみこ/イラスト

毎田 祥子, 井出 杏海, 木村 由依, クライ・ムキ/監修

河出書房新社 59/夕/16

家庭科の授業は好きですか。英語や数学ほど一生懸命勉強しない人が多いのでは？しかし、一人暮らしを始めたなら最も頼りになるのは、家庭科かもしれません。この本では、洗濯・料理・片付け・掃除・裁縫の各エキスパートが、基本をわかりやすく教えてくれます。基本が身についていれば、ムダや失敗が少なく、スッキリした暮らしに。すぐに実践したくなる情報がいっぱい載っています。春から一人暮らしを始める人はもちろんのこと、自分の暮らしを見直したい大人にもオススメです。



名作だからばこ

『ジキル博士とハイド氏』 スティーヴンスン/作 岩波書店

93/イ7/02



人々から信頼される医師・ジキル博士。ですが自ら発明した薬によって、欲望のまま普段のジキル博士からは想像もつかない別のおぞましい人物へと変身します。しかし変身を何度も繰り返すうちにもとの姿に戻ることが難しくなっていく...

ジキルとハイドでよく知られた名作です。人間の善と悪。欲望にとらわれた人間の結末。考えると少し恐ろしい感じもしますが、とても興味深い作品です。

特集

身近な相手に「思いやり」のある言葉や、行動で接している人は、コミュニケーションをとることも上手に見えます。自分自身の「思いやり」の気持ちを改めて考えさせられる本を紹介します。



『偽善のすすめ 10代からの倫理学講座』 パオロ・マツツァリーノ/著 河出書房新社 15/キ/13

突然ですが、質問です。電車の中でお年寄りに席を譲った人がいます。真心から席を譲った人と、いい人と思われたくて席を譲った人がいた場合、後者は思いやりのある人でしょうか。それとも偽善者でしょうか？偽善について考察したのがこの本です。偽善という概念はいつからあるのか、日本ではどのように捉えられてきたのか。偽善は悪いことなのか。思いやりを偽善という観点から考えてみませんか。対話形式で具体例も多く、とても読みやすいですよ。

『ふたりはともだち』 アーノルド・ローベル/作 文化出版局 E/フン/Z22

ちょっとわがままでマイペースながまくんと、しっかり者のかえるくん、仲良しな二人の物語。大事件ではないけれど、いつもさまざまな出来事が起こります。二人はいつもお互いを思い合っています。だけど、この物語を読んでいると、どこかとぼけていくすりと笑えます。

手紙が来ないと嘆くがまくんのためにかえるくんが手紙を書き、それが届くのを二人でいっしょに待つお話、『おてがみ』をはじめ5つの物語が入っています。

セピア調の絵もほのぼのとしていて、ほっこりあたたかい気持ちになる1冊です。



『12歳からの人生論』 多湖輝/著 新講社 15/シ/06

おもいやり。相手の気持ちを理解して、優しくしてあげられたなら、それってすごくいい事だよ。でも相手の気持ちを理解するなんて簡単に言うけど、言うほど簡単なんだろうか。みんな同じふうに考えてるのかな？それにどうしても好きになれない人もいるよね。そんな人にも自分を押し殺して優しくしないとイケないのかな？そもそも優しくするってどういうことなのかな。この本はそんな悩みに「こうすればいいんじゃないかな？」って教えてくれています。書いてあること全部が納得できるわけじゃないと思うけど、それでも悩みがちょっとでも楽になればいいです。



『銀のロバ』 ソーニャ・ハートネット/著 主婦の友社 93/シュ/06

ある日、フランスに住む姉妹が森で出会ったのは、盲目のイギリス人兵士。彼は戦争のストレスから視力を失っていた。弟のもとへ帰るために軍を脱走してきたのだった。そんな彼を帰還させようと奮闘する姉妹の思いやりに心惹かれます。





ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会さん)

『ジェイン・エア (上、下)』 シャーロット・ブロンテ/作 河島 弘美/訳 岩波書店
933.6/シ/13-1,2

時代は19世紀後半、両親を亡くし親戚の元で育つ10才のジェーン・エア、その半生を一人称で振り返る大長編ラブロマンスです。

女性が意見を持つこと自体が御法度な時代、自身のアイデンティティを確立し自己主張をし、そして人生の選択をしていくジェーンの生き方は当時英国の大ベストセラーとなり、人気は世界に広がり現代までになんと8度も映像化されています。(直近は2011年英米合作)

かなりの長編ですがドラマティックラブストーリー?なので先が気になってしまいアレヨアレヨと読めてしまいますよ。

21世紀にも十分堪能できる英国文学最高峰の一冊。ぜひ読破してみてください。



話のタネに!



この間JAXAが世界最小のロケットを打ち上げると発表しました。残念ながら打ち上げには失敗しましたが、そのことは話題を呼びましたね。

ロケットなどの機械に限らず、生き物や物質、言葉、数字など決められたわずかなスペースに必要なものが綺麗に収まっているところにロマンを感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回はそんな「小さい」世界にご招待します。



『小さなmonsterたち』 西永奨/著 洋泉社 486/千/12

小さい生き物といえば虫だろう。この本は、その中でも特に小さな虫にピントを合わせた写真集となっています。図鑑ではなく写真集なのは、載っている写真を見れば明らか。その迫力、情感はすごいものがあります。虫が苦手な人もここまでの写真であれば平気かもしれませんよ。



『魅惑と驚きの「数」たち』 イアン・スチュアート/著 水谷淳/訳

SBクリエイティブ 412/ミ/16

最小の数ってなんだろう?やはり"0"かな。でもマイナスを考えればもっと小さい数があるし。でもゼロより小さいってどういうこと?じゃあ大きい数といえばやっぱり無限かな?でも無限にも大きいものと小さいものがあるみたいで……。シンプルに見えて複雑で深い"数"の世界に浸ってみませんか?



『分解してみました 現代人のためのテクノロジー解体新書』

トッド・マクレラン/著 金成希/訳 パイインターナショナル 530/7/15

小さい頃、ドライバー片手に家にある機械を分解しては戻せずに怒られた経験はありませんか?フタをあければたくさんの小さな部品が詰まっている状態にびっくりしつつもワクワクした人もいます。この本はそんなワクワクが詰まっています。小さいものから大きいものまで見事にバラバラ。これは元に戻せるんだろうか?



YA担当イチオシ!

『世界で一番美しい元素図鑑』

セオドア・グレイ/著 創元社 431.1/セ/10

どんな本?

元素それぞれについて、左ページに純粋状態の大きな写真、右ページに日常見かける化合物や応用製品の代表例が美しい写真で紹介されています。ユーモアあふれる解説も満載の図鑑です。

ここがオススメ!

化学が苦手な人やあまり興味のない人でも思わず手に取りたくなるほど、その美しい写真は目をひきます。「元素」というと、「周期表を丸暗記した覚えしかない…」などと難しく感じるかもしれませんが、私たちの身のまわりの全てのもの(もちろん私たちも)は、元素でできています。そんなことを考えながら読んでみるのもいいですね。眺めるだけでも楽しい、化学が身近に感じられる本です。

付録付きの『デラックス版』もおすすめです。

YA(ヤングアダルト)コーナーって?

図書館3階雑誌コーナーのとなりです。たとえば、こんな本があります。



- ◎10代向けの小説・読み物
- ◎勉強・進路・職業に関する本
- ◎いろんな悩みの解決に役立つ本
(学校生活・友だち・恋愛・家族・心と体 など)
- ◎自分の世界を広げるための本(趣味やスポーツ)

※表紙画像の掲載にあたっては出版社に許諾を得ています。

「〇〇について調べたい!」
「△△の本はどこ?」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。

春日井市図書館

春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

ケータイサイトはQRコードから→

